

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No. -（事務局用）	自治体提示の地域課題名 今と未来をよりよい歴史にするため地域の活力と誇りを進化させる	自治体名 岡山県 倉敷市
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	親子で住まいを未来につなぐ —「脱・空き家」教育—		

（注1）地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 （公開）	岡山大学 「脱・空き家」教育プロジェクト		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 （公開）	4名		
代表者 （公開）	小寺啓太		
メンバー （公開）	大畑友紀、丸尾大樹、高橋紘輝		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募内容の公開＞

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 確認後 OK なら右に○印を記入⇒○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイント>はこれです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

空き家問題に当事者意識を持って、正しく理解してもらおう！

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

◆課題解決のために「何を」するアイデアか

歴史ある町にも空き家の増加がみられるようになり、倉敷市もその一例である。空き家の発生は全国的な問題として今後一層深刻化することが考えられるが、空き家が町に及ぼす影響を正しく理解してもらい、親子でのコミュニケーションを通じて両者に当事者意識を持ってもらうきっかけを教育に取り入れる。また、地域の歴史的背景を盛り込むことによって、地域愛着の醸成を促し、将来的な定住意識や空き家の発生抑制にもつながることが期待される。

◆「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するか

市内に通学する小学3・4年生を対象として、社会科の授業に空き家を取り入れることで正しい知識を身に付けてもらう。また、その学習をもって親子で将来の住まいについて考え、子だけでなく親にも当事者意識を持ってもらう契機とする。空き家についての教育の2本柱は次のとおりである。

(1) 地域とつなぐ（地域に特化した副読本を用いた授業）

現在倉敷市内の小学校では、倉敷市教育委員会が出版・発行を行う『みんなのまちくらしき』という社会科副読本を用いて、倉敷市に関する授業を行っている。この副読本に、①町の歴史的背景、②町の現状、③空き家に関する内容を掲載し、空き家への問題意識と地元の現状を知ってもらう。さらに発展的な内容として、フィールドワークを行い、学習した内容をまとめ、成果として発表する機会を設け、地域住民や専門家等で意見交換を行う機会を持つことも理想的である。また、これまで取り上げられていない新しい話題であるため、授業を担当する小学校の教諭を対象に、授業の方法や内容をレクチャーする機会を倉敷市教育委員会が開催する。

(2) 親子でつなぐ（親子シートの作成と保護者から子供への手紙）

自身が暮らしている家について、親子で一緒に考えて回答を行う「親子シート」（次頁参照）を作成し、保護者がその結果から、親子間での共通認識や相違を確認し、相続をはじめとした家の将来を考えるきっかけとする。また、親子シートの結果をふまえて、保護者から子供に向けて手紙を書いてもらい、両親が家の将来をどのように考えているかを子供に知ってもらうきっかけとする。その手紙は大切に保管し、ライフステージの転換期等に読み返すことによって、家族で話し合う機会を設けることに繋がり、空き家の発生抑制に直接的に効果を発揮することが期待できる。

出典（次頁図も含む）：倉敷市 HP、国勢調査、住宅・土地統計調査、倉敷市空き家データ

◆副読本の作成案

(1) 玉島の歴史的背景と、現在の人口推移等を学習する頁

玉島の町なみほぞん地区

玉島は、どんな町だったのだろう。

まちさんは、玉島が昔、かんたくして作られた港町であることを知りました。れきし的な景色を守るため、町なみほぞん地区になっています。



町なみほぞん地区（新町）
かんたくされる前の玉島地図

玉島は、いつもの島からできているんだね。昔は、たくさんの船が行き来していたのかな。

かつて、通町商店街はとてもにぎわっていました。230メートルもある商店街では、定期的に朝市がおこなわれています。

昔ながらの風景を、楽しむこともできます。



玉島で一番長い商店街（通町）

中学生島みなと都市は毎月第2日曜日に開かい

(1) 人口減少と高れい化が進む玉島

玉島は、どのように変わってきたのだろう。

まちさんたちは、これまで玉島の人口がどのように変化したかを調べました。さらに、倉敷市や日本全体の人口と比べることにしました。

	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
全国	126,925,843	127,787,994	128,057,352	127,094,745	126,146,089
倉敷市	430,291	469,377	475,513	477,118	474,592
玉島	63,235	63,615	64,938	63,671	63,218

人口の変化（全国・倉敷市・玉島）

玉島では、倉敷市全体よりも一足先に、人口が減少しているみたいだね。

20年前と比べて、少ない人数で高れい者を支えなくてはならないよ。しょうらいは何人で支えることになるのかな。



倉敷市
5.25人 → 2.95人
玉島
4.00人 → 2.45人
1人の高齢者を支える人数（倉敷市・玉島）

人口減少や高れい化が進むと、どのような問題が起こるでしょうか。考えてみましょう。

授業スライドの例
(ワークショップで使用)

空き家が増えると起こる問題はどれでしょう？

- 家が崩れる危険が高まる
- 悪い人があらわれる
- がい虫やネズミがふえる

どうして空き家になるのか

子どもといっしょに住みたいなあ

いっしょにくらして楽しいなあ

だれも住んでいない家は、どうなるのだろう？

どうして空き家になるのか

あや 空き家になっちゃった

空き家にしないためにはどうすればよい？

自分の将来をどうしたいか伝える

家族で話し合う機会をもつ


(2) 空き家の概要・問題点及び空き家の現状を学習する頁

身近にせまる空き家問題

空き家とは、どのような問題か、調べよう。

人が住まなくなった家を「空き家」といいます。空き家は、長い年月をかけてこわれてしまったり、町の景色や安全がそごなわれてしまうこともあります。

たおれそうな家があるね。だれも住んでいないのかな。



空き家の様子


家を建てる → 家に人が住んでいる → 住む人がいなくなる → 空き家になる

新しい家が空き家になるまで

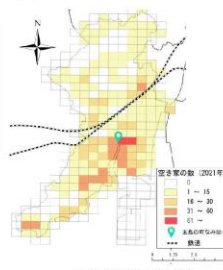
身近な地いきに空き家が増えると、どのような問題が起こるでしょうか。その問題をなくすためには、何をすればよいか、考えてまとめてみよう。

(1) 玉島での空き家の今

としおさんたちは、日本で空き家がどれぐらいふえているかを調べました。また、玉島の空き家の様子についてもみることにしました。



空き家の数は年々ふえているよ。今限ふえ続けなければ、どうしたらよいだろう。



玉島の空き家の数（2021年）

ぼくが今住んでいる家は、しょうらいお父さんとお母さんから受けついで、空き家にならないように考えないといけないね。

◆親子シート（左）と保護者からの手紙（右）の取り組み例

あなたの「おうち」のことを親子で考えましょう
(保護者の方は、設問と同じ状況の場合にご自身が希望される内容を選択してください。)

(1) あなたの「おうち」についてどう思っていますか？

あなた	お父さん・お母さん
<input type="checkbox"/> 家族みんなで暮らせるから好き	<input type="checkbox"/> 家族みんなで暮らせるから好き
<input type="checkbox"/> 近所に楽しい場所や友達がいるから好き	<input type="checkbox"/> 近所に楽しい場所や友達がいるから好き
<input type="checkbox"/> これからもずっと同じ家に住みたい	<input type="checkbox"/> これからもずっと同じ家に住みたい
<input type="checkbox"/> 他の家に引っ越したい	<input type="checkbox"/> 他の家に引っ越したい

(2) お父さん・お母さんが、おじいちゃん・おばあちゃんになったとき、あなたはどこで暮らしたいですか？

あなた	お父さん・お母さん
<input type="checkbox"/> 今住んでいる家に家族と一緒に暮らしたい	<input type="checkbox"/> 今住んでいる家に家族と一緒に暮らしたい
<input type="checkbox"/> どこでもいいので家族と一緒に暮らしたい	<input type="checkbox"/> どこでもいいので家族と一緒に暮らしたい
<input type="checkbox"/> 家族が暮らしている近くで暮らしたい	<input type="checkbox"/> 家族が暮らしている近くで暮らしたい
<input type="checkbox"/> 遠く離れたところで暮らしたい	<input type="checkbox"/> 遠く離れたところで暮らしたい

(3) あなたの「おうち」に将来どうなってほしいですか？

あなた	お父さん・お母さん
<input type="checkbox"/> 自分自身や自分の子供と一緒に暮らせる家であってほしい	<input type="checkbox"/> 自分自身や自分の子供と一緒に暮らせる家であってほしい
<input type="checkbox"/> お父さん・お母さんが暮らしてほしい	<input type="checkbox"/> お父さん・お母さんが暮らしてほしい
<input type="checkbox"/> 大事に暮らしてくれる人に譲ってあげたい	<input type="checkbox"/> 大事に暮らしてくれる人に譲ってあげたい

としおくんへ

私たちが今住んでいる家は、としおくんが生まれてすぐに新しく建てた家です。私たちがこの家やその周りの様子もとても気に入って、毎日楽しく過ごしています。としおくんも私たちとこの家で暮らすのが好きだと思っていてくれて、とてもうれしいです。としおくんは大人になったとき、子どもや私たちが暮らしたいと思っていてくれていますが、家族がたたくさん増えると狭く感じてしまうかもしれません。そのときは、近くに住んでくれると安心ですが、まだ今はわからないですね。もっと先の将来、今住んでいる家をどうするか、考えたことがありませんでしたが、としおくんが大きになったら家族で話し合いたいです。

お父さん・お母さんより

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

倉敷市において、岡山県が指定する「歴史的町並み保存地区」に選出されている玉島まちなみ保存地区、下津井まちなみ保存地区周辺では空き家増加数が突出して高い傾向にある。町並みを保存していくべき地区において景観や治安を悪化させる空き家が増加しているということは対策すべき事案であり、「歴史」を、形あるものとして「未来」につなぐためには空き家問題の重大さや空き家の対処方法を市民に早い段階で啓蒙する必要がある。また、「空き家」の発生はその地域の活力を失わせることにつながり、「未来」を語るに値する「歴史」として繋ぐためにはその対処を早い段階で行う必要がある。

倉敷市に限らず、人口減少や高齢化といった社会問題を背景に、戸建ての管理者の減少や不足が原因となり空き家の増加が見られる。総務省が実施している住宅・土地統計調査によると、空き家は全国的に年々増加しており2018年では空き家率は13.6%を占める（図1）。倉敷市でも同様に2014年及び2021年に市全域を対象とした倉敷市空き家等実態調査を実施している。その中で、歴史的背景を多く有する玉島地区に着目する。玉島地区は江戸時代の干拓により築かれた玉島（図2）に中心市街地の元となる玉島港が開港し、商港として栄えた歴史を持つ。しかし、時代の変化とともに玉島港の間屋は衰退し、モータリゼーションによる都市の郊外化によって中心市街地の空洞化は深刻化している。このような背景から近年、玉島まちなみ保存地区を有する中心市街地に空き家が増加している。玉島地区の空き家は2014年では1425戸に対して2021年2056戸と約1.4倍に増加し、特に図3で示した玉島まちなみ保存地区では特に空き家数が多いことがわかる。空き家数の変化に関しても玉島地区では局所的に増加しているだけではなく図4のように地区全域で空き家の増加傾向が見られている。

空き家の取得理由として、最も多いのは「相続」であり、その割合は50%を超える（図5）。空き家が発生する詳細な原因を把握するため、倉敷市の空き家担当者にヒアリングを行った（写真1）。倉敷市内では市民を対象とした空き家の相談会や空き家を活用するモデル地区での活動が行われているが、個人の財産であるという特性上、地域での取組が難しいことや、当事者である市民が不動産に対する知識がないことを問題視している。また、家族内のコミュニケーション不足が空き家を発生させる原因になると感じているとのことであった。実際に、自宅の将来に対する

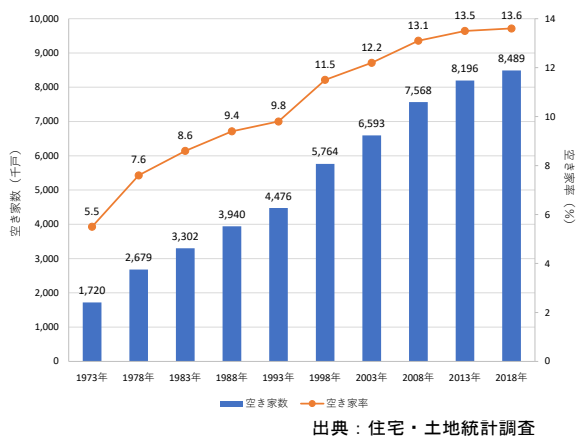


図1 全国の空き家の経年変化

図2 玉島地区の変遷

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

関心や行動の有無について、若年層では半数以上が行動しておらず、80代以上であっても3分の1の人は行動していないのが現状である(図6)。相続により空き家を取得する割合がほとんどであることを考慮すると、家庭内のコミュニケーション不足が空き家発生の核心であると考えられる。しかし現状の空き家の対策は、空き家の立地や空き家の段階ごとに異なるが、後手に回っており、空き家の“発生抑制”や“早期対応”に着目した取り組みは少ない。以上のことから、「相続への知識及び家庭内でのコミュニケーションの不足」に対して早期にアプローチすることが空き家の発生抑制に最も効果的な対策だと考えた。また、空き家の現状、(特に発生させないための)対処法を教育として取り入れ、子どもと親の両者に当事者意識を持たせることは、斬新な手法であると考えられる。

本アイデアでは空き家の現状とその対策を小学3・4年生の社会科の副読本の1トピックとして教育に取り入れることを提言する。対象を3・4年生に設定した理由は、当該学年の社会科の目標として地域を対象とし、地理的環境の変遷の社会的課題解決に向けた資質・能力の育成を到達目標としており、空き家問題は地理的側面および社会的側面にまたがり、かつ今後より深刻化すると考えられるためである。加えて、児童が宿題として自宅に持ち帰り、親子で空き家問題や自宅の将来をどうするかについて考え、一時的にでも答えを出すことで、保護者も当事者意識を持ち、いずれ訪れる自宅の「相続」について考える契機とし、今後の自宅の将来について長い目線で捉えることが出来るようになることも、本アイデアの狙いである。さらに、本アイデアは副読本を用いて小学校3・4年生の社会科の授業に取り入れることの前段として、総合的な学習の時間を活用して取り組むことも可能である。この取り組みはそれぞれの地域の特性や歴史的な背景、人口増減、空き家のデータを活用することで、様々な地域での応用が可能であるため、実用性の高い取り組みであることも特長の一つである。

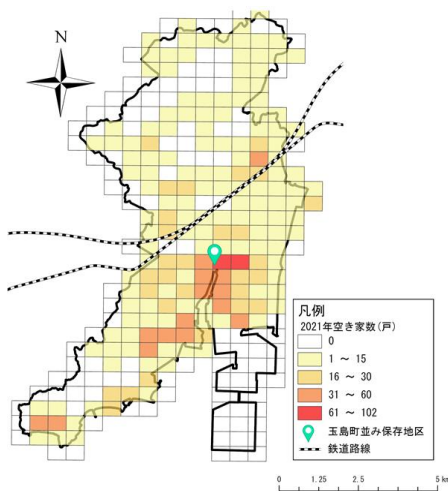


図3 2021年における空き家数
(500mメッシュ)

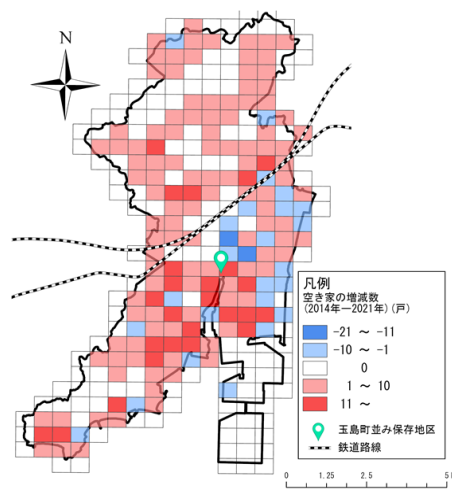


図4 2014年から2021年における空き家の増減
(500mメッシュ)

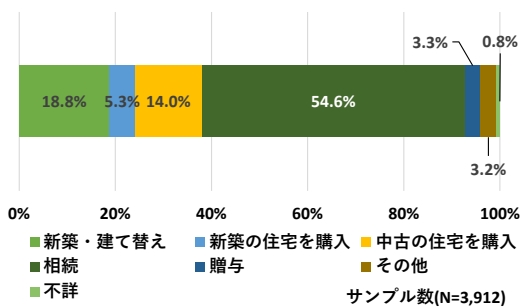


図5 空き家の取得方法の割合

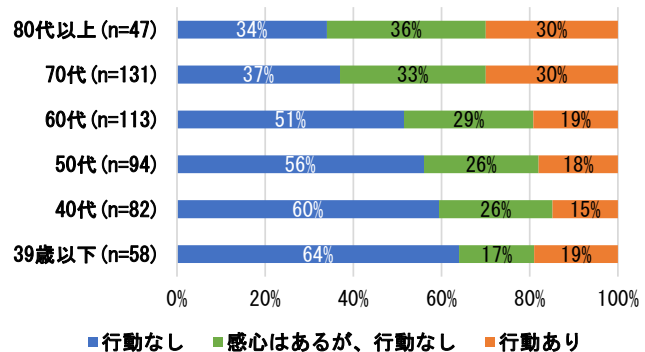


図6 自宅の将来に関する関心や行動の有無

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大きな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大きな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

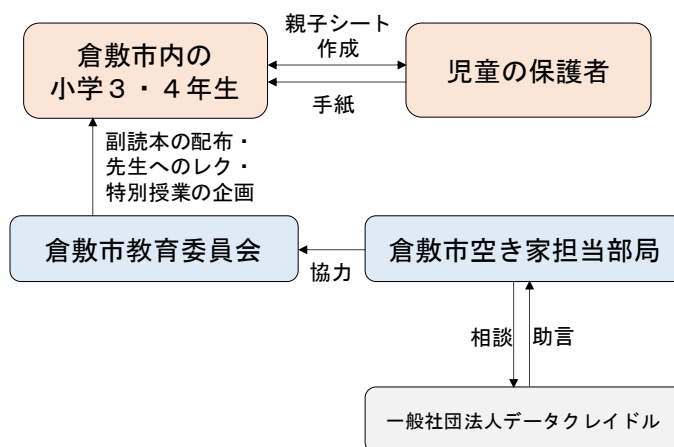
＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大きな規模とその現実的な調達方法**
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1. 実現する主体

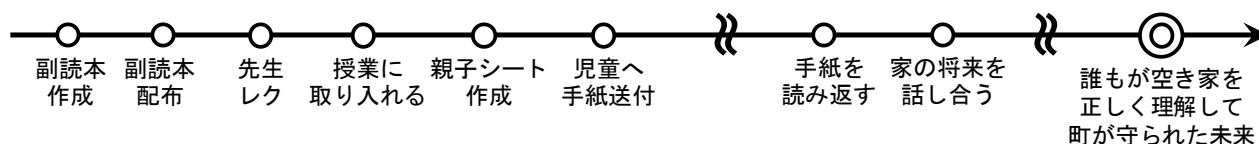
- ・倉敷市内に住む小学 3・4 年生とその親・家族
- ・倉敷市教育委員会
- ・倉敷市空き家担当部局



2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大きな規模とその現実的な調達方法

- ヒト：空き家担当部局と市教委から数名ずつ担当し、チームとなって遂行
 実現主体の両者に助言を行い、小学生への特別授業を行う専門家
- モノ：最新の空き家のデータ、地域の歴史的資料
- カネ：副読本の出版については、現状の既定予算（空き家調査費用は別途必要）

3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス



「脱・空き家」教育を実施するための準備として、教材の作成・配布、授業を行う先生へのレクチャーを行い、実際に「脱・空き家」教育に取り組む。その数年後、子供のライフステージの転換点（例えば地元を離れる引越のタイミング等）で手紙を読み返し、自宅の将来を考えるコミュニケーションをとるきっかけが生まれ、そのサイクルを続けることで「誰もが空き家を正しく理解して町が守られた未来」を実現することができる、というのがこのアイデア全体のプロセスである。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

地域に特化した副読本を用いた授業を行うにあたり、副読本の編集の際に空き家に関する内容を盛り込む必要がある。そのため、対象地域の歴史的背景に関する調査と、空き家の状況調査を行う。その結果をもとに副読本の編集を行い、各学校への配布や担当教員へのレクチャーを行う。その後、授業に取り入れる。

また、授業後には児童が各家庭で取り組む「親子シート」を配布し、作成してもらう。親子シートをもとに、保護者は自宅の今後について子どもに手紙を書き、それが空き家について考える契機となる。また、その手紙を受け取った子どもは両親の気持ちを知り、手紙を大切に保管しておく。将来各児童が、進学・就職等をきっかけに手紙を読み返し、家の将来を考えることを再認識してもらい、家庭での話し合いの場を設けることに繋がることを期待する。このようなサイクルを構築することで、継続的な取り組みにより空き家を考えることが新しい常識となる。

今回、副読本を作成するにあたり、本教材を用いた授業及び親子シート・手紙の作成を、実際の小学校3・4年生の親子に体験していただき、どのような反応があったかを確認した。（活動の様子は写真2, 3, 4）また、体験終了後に参加者との対話を通じて、未来の住まいについて考えるきっかけになったことや、保護者のなかには今後家を購入する際の参考にしたいなどの意見が得られ、親子で未来の住まいを考える契機となる効果が確認できた。

実施前年度		実施年度	
倉敷市教育委員会	歴史的 背景調査	副読本 編集	教員への レクチャー
倉敷市空き家担当部局	空き家 調査		
倉敷市内の小学3・4年生		授業	親子シート 作成
児童の保護者		手紙を 送る	手紙を 読み返す 自宅の将来 について 話し合う機会

